

令和4年度学校自己評価表								鳥取県立米子南高等学校			
中長期目標 (学校ビジョン)		【 大胆な挑戦 】 1 意欲を育てる＝「主体性を育てる」「やる気を引き出す」 2 成長を支える＝「人と出会い、新たなことへの挑戦を促す」 3 変化を求める＝「現状に満足しない」「アンテナを高く張る」			今年度の重点目標		1 基礎学力の向上 2 基本的生活習慣の確立 3 キャリア教育の充実 4 地域社会への貢献 5 的確な情報発信 6 業務改善の取組				
年 度 当 初						評 価 結 果 (2 月)					
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方法				
【基礎学力の向上】 ○社会人として必要な基礎学力・一般教養の習得 ○「やる気を引き出す」授業の工夫・改善	○家庭学習を充実させ、基礎学力の定着 ○一般教養を習得させ、社会人として必要な力の修得	○学校評価アンケートでは、1日あたり1時間以上の家庭学習を行う生徒は26％と少ない。関連して、家庭学習や自主学習ができていないかの問いでは、48％ができていないと回答している。 ○ICTを活用した授業を実施したと回答した教員は、82％、授業アンケートの集計結果等にもとづき、生徒にとってわかる授業の工夫を進めた教員は、87％である。 ○生徒の授業理解における肯定的評価は85％であった。また、朝読書・朝勉強テスト等で知識が身についているとする生徒は81％であった。	○1日の平均家庭学習時間が1時間以上である生徒が40％以上である。 ○ICT等を活用し、生徒の興味関心を育み、考える力を培う授業が広く実施されている。 ○生徒の授業理解における肯定的評価が90％以上、また朝読書・朝勉強テストで知識が身につけているとする生徒の割合が85％以上である。 ○主体的に学習に取り組む生徒が増える。	○定期的な宿題、各種検定、One Weekトライアル、基礎学力テスト、朝勉強テストなど生徒にとっての身近な学習機会を通じて学習意欲を喚起し、家庭学習を充実させる。 ○一人一台端末導入初年度であり、Google Classroomの活用等、授業改善を目標に、主体的・対話的かつICTを活用した授業を設計できる教員を増やすため、教員研修の機会を設ける。 ○読書活動が円滑に進むよう「らいぶらりん」、「図書館通信」の内容を充実させて情報提供していくとともに、活動内容の提案をしていく。 ○朝の読書活動が円滑に進むように支援を続ける。 ○生徒が主体的に考える授業を工夫する。	○各教科でChromebookの活用を含め、課題提出等の取り組みをしているが、学校評価アンケートで「1時間以上の家庭学習を行っている」と回答している生徒は23.7％と低い。 ○学力層の上下間の格差はますます広がっている。課題等で念入りに手入れはしているが、対策が奏功しているとは言えない。 ○G I G Aスクール構想1年目でI C T活用が進みつつある。 ○学校評価アンケートで「授業理解における肯定的評価」は84.6％、「朝読書・朝勉強テストで知識が身についている」とする生徒の割合は80.7％であった。	B	○基礎学力の定着を目指し、各教科が連携して引き続き家庭学習の取り組みや、夏期・冬期講習の計画・実施に努める。 ○授業計画をおこなう際、探究学習、STEAM教育の要素を取り入れる。 ○積極的にChromebookを活用し、効果的な授業の構築を図る。 ○引き続き、定期考査や各種検定などの身近な学習機会や補習などのきめ細かな指導はもちろん、面接練習や小論指導など進路実現を意識した取り組みも進めていく。 ○生徒自ら学びを深めたいくなるような仕掛けの実施。 ○探究活動の充実（自ら課題を見つけ解決策を模索する取組の実施）				
【基本的生活習慣の確立】 ○知・徳・体のバランスが取れ、社会人として必要な規範意識を身につけた人物の育成 ○あいさつの励行、ルールとマナーを遵守することの啓発	○知・徳・体のバランスが良い生徒の育成 ○社会生活におけるルール・マナー・モラル等を遵守する習慣や規範意識の修得	○授業前後の分離礼の取組は概ね成果を上げ、習慣化しているが、生徒によっては取組姿勢にばらつきがある。特に、自ら率先して挨拶ができる生徒は多くない。 ○多くの生徒が服装頭髪検査で問題ないが、社会人として必要なモラルやマナーに欠け、指導の対象となる生徒が若干名いる。 ○SNSを利用している生徒が多く、トラブルが増加の傾向である。 ○多くの生徒が落ち着いた学校生活を送っているが、中には人間関係に悩み、不安を抱え、基本的生活習慣が乱れる生徒がいる。	○ルール・マナー・モラル等を遵守する規範意識、特に情報モラルの意識が高まっている。 ○自ら率先して挨拶する生徒が増える。 ○生徒が主体的に考えて行動し、より良い人間関係を築き、充実した学校生活を送っている。 ○分離礼の習慣が学校生活全体に浸透している。 ○学校評価アンケートで、生徒・保護者の「基本的生活習慣の確立」項目の肯定的評価が90％以上である。	○生徒会執行部を中心とした生徒主体のあいさつ運動を展開していく。 ○SNS利用に関する情報提供やトラブル防止の啓発活動を継続して実施する。 ○服装指導、遅刻指導について、家庭との連絡を密にして取り組む。 ○不安を抱えている生徒について、教育相談担当を中心に迅速に対応し、担任、学年団、SC、SSW及び関係機関と連絡を密に行い生徒を支援していく。 ○分離礼については、できるまで繰り返すなど徹底して指導する。 ○人権教育・保健・教育相談・生徒指導の観点で生徒を支援する。	○ハイパーQ Uの分析や情報交換を、教育相談担当者が担任、学年団、S C、S S W及び関係機関と連携して行うことで、生徒理解に努めた。 ○ゴミの分別や節水等の環境保全についての呼びかけや啓発活動を実施することができ、生徒の環境意識の定着に結びついている。 ○新制服初年度生として、9割以上の生徒はきちんとした着こなしを心掛けている。 ○多くの教員が、分離礼をできるようになるまで指導を続け、定着できるよう取り組んだ。 ○学校評価アンケートの「基本的な生活習慣の確立」項目では、肯定的回答は、生徒92.4％、保護者94.4％であった。	B	○ハイパーQ U、ストレスマネジメントL H R等を継続して行うとともに、保護者や学年団、関係機関と教育相談担当との連携をさらに強め、きめ細かく対応していく。 ○環境教育については従来の活動を継続するとともに環境問題への関心がより高まるよう図書館とも連携しながら新しい情報を生徒へ提供する環境を構築する。 ○分離礼を含め、社会人としての挨拶がしっかりとできるまで繰り返し指導を行うことを続ける。 ○社会に求められる人材を目指した行動がとれるよう、服装面・生活面ともに全職員で連携し、粘り強く指導する。				
【的確な情報発信】 ○学校の様子や教育内容等の伝達の工夫 ○学校に対しての正確な認識の形成	○メディアを利用した教育内容のわかりやすい伝達 ○特色ある専門高校としての人財育成に取り組む姿の発信	○ホームページを中心にイベントだけでなく授業内容についても掲載し、鮮度の高い情報を頻繁に発信した。また、商業学科の生徒が中学生にわかりやすい内容に編集した学校案内を作成した。	○生徒が成長していく過程がわかるような情報を発信していく。 ○米南みつばち学習発表会を多くの地域の方や中学校関係者に見ていただき、本校の特徴を理解していただく。	○ホームページの情報発信の推進担当を中心に、分掌、学科、部活動等で情報を提供しホームページ・Facebookの更新を積極的に行っていく。 ○校内行事においても各メディアでの情報発信を積極的に行う。 ○米南みつばち学習発表会のパンフレットを作成し、中学生や地域の方に配布する。	○米南みつばち学習発表会は、多くの保護者、来賓をお迎えし、充実した内容で実施することができた。 ○授業や教育活動の様子をホームページやfacebookにあげ、マスコミにも情報提供を行った。 ○生徒の活動の写真を撮っていても、ホームページにアップできなかったものもあった。	A	○米南みつばち学習発表会の様子がわかるような画像、映像を集約し活用を促すとともに、広く一般の方への観覧・閲覧も可能とする。 ○マニュアル化によって多くの職員が、情報発信できるようになっているので継続する。 ○[商業科]ホームページに授業の様子を掲載する担当は、T Tのサブ教員や実習助手であることを再確認する。				

評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方法
【キャリア教育の充実】 ○適切な職業観・勤労観を持ち、意欲的に課題発見・課題解決に取り組む人物の育成 ○インターンシップの早期計画と進路LHRの活用 ○地元産業との連携を図り、専門性を深化させ、地域から信頼される人物の育成 ○資格取得の合格率向上のための指導法の工夫	○系統立てた指導により、職業観・勤労観の育成を図り、課題研究等を充実させ、主体的積極的な取組の推進 ○インターンシップ等、体験学習の充実 ○進路実現に向け、地元産業・大学等を理解促進を図り、進路意識の向上 ○資格取得に向けた取組を推進し、より高度な専門資格の取得	○本校が取り組んできた進路指導、キャリア教育を基礎として、キャリア・パスポートを作成した。 ○1年生は進路希望別に学校企業見学会を実施した。2年生は多くの事業所の協力を得てインターンシップを計画したが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止となった。そのため、職業観・勤労観を持てていない生徒もみられ、進路に対して明確な目標を持てていない生徒もいる。 ○3年生は課題研究によりその専門性を深化させるとともに、希望する進路実現のために面接、小論文の学習に取り組んでいる。 ○各種資格試験に熱心に取り組んでいる生徒は多いが、それに見合う十分な成果は得られていない。	○キャリア・パスポートが実効性あるものとなるように修正を加え、3年間を見通したキャリア形成の道筋をつけるものにしていく。 ○インターンシップに主体的・積極的に参加し、職業観・勤労観を高め、自らの明確な進路意識につながっている。 ○就職希望者が全員内定を得ている。 ○各種資格試験の合格率が目標に達している。また、進路を意識し積極的に上位級を目指している。 ○人間力と望ましい勤労観・職業観が育成される。 ○読書活動を支援し、生徒の知的好奇心を刺激し、読書意欲の向上みられる。	○キャリア・パスポートの活用において、年間スケジュールのもと教員間の共通認識を大切に活用推進に取り組む。 ○前年度1年時に受入先の事業所を確保し、生徒の行き先の事業所を決定するなど実施に向けて準備を進めていくことで生徒のキャリア意識を深めていく。 ○コロナ禍ではあるが協力していただける企業等の数は変わらないため、密に連携し感染対策を行った上でインターンシップを実施する。 ○3年生の面接指導の実施時期を早め、全教職員で指導していくことにより生徒の進路意識や発信力を高めていく。 ○資格試験対策においては、知識の伝達の学習にとどまらず、学習方略を指導することで、生徒の主体的学習を促す。また、家庭で復習できる教材を用いて知識・技能の定着を目指す。	○インターンシップをはじめ講演会や進路LHRを活用し、各自進路をより具体的に考え、進路実現への意識は高まりつつある。 ○総合型選抜対策の充実を図ることで、学校推薦型を含めた特別選抜への対応を丁寧に行うことができた。 ○就職希望者の内定率が97.4%、進学希望者の進路決定率は97.4%（1月末現在）であった。 ○学校評価アンケートの「専門的な学習を深めることができましたか」の項目で肯定的な回答は94.6%であった。 ○キャリアパスポートは時間確保が困難で十分に活用できたとはいえなかった。	B	○様々な進路学習の機会をとらえて指導し、納得できる複数の進路目標を描けるようにさせる。 ○1年時からより早い段階で進路意識を高めるための取り組みを行う。 ○進学に関して生徒の積極性をより引き出す体制づくりと情報提供を行う。 ○総合型選抜等に対応した指導の充実を図る。 ○次年度も社会人講師を招いて、生徒のキャリアデザインの構築を促す。 ○調理コース1・2年生の専門科目時間数確保のために月1回程度7限授業を実施する。 ○キャリアパスポートは年度当初から日程の確保を行う。
【地域社会への貢献】 ○地域を知り、ふるさとを愛し、広く地域社会の発展に寄与する人物の育成 ○社会貢献の推進、校外の教育力の活用	○地域活力の導入や地域活性化の推進 ○学校や地域で主体的に行動でき、地域社会の発展を進める人財の育成	○商業学科課題研究では、米子市公会堂と連携したイベントを継続して開催している。地域とのつながりを伴う活動を通じて、自らのキャリアデザインのきっかけをつかみ、進路選択の参考にできる生徒が出てきているが、全ての生徒が行えているわけではない。 ○家庭学科課題研究では、例年いくつかの生徒企画によるものが商品化され、試食会や販売活動等ではマスコミに大きく取り上げられてきたが、コロナ禍で多くの企画が中止となり地域貢献が十分行えていない。 ○生徒会の活動では校則についての確認や提案をおこなうなど批判ではなく改善のための積極的な取り組みを行う事ができている。また校内の美化にも関心を持ち、学校生活をより快適におくるための提案や具体的な取り組みを行っている。 ○ハンセム高校との交流が中止となっている現状ではあるが、韓国の高校とのオンライン交流や外国人講師を招き文化交流を行うなど国際理解をより深める活動を行った。	○地域と連携した取組をさらに充実させていくとともに、課題研究等を通じてそれに関わる生徒、職員を増やす。 ○2月開催予定の米南みつばち学習発表会を目標として、地域をより理解し、行動できるようコミュニケーション力・プレゼンテーション力を向上させる。 ○他者と協調し計画性や目標を持って各種の行事等で活動できる生徒を増やす。 ○自らが模範となり他の生徒をまとめ、率先して行動できるリーダーを増やす。 ○PTAとともに計画する国際交流のための行事等を通じ、外国文化の理解、交流の機会を設け国際理解教育の推進が図られている。	○活きたビジネス教育を実現していくためにも、生徒が地域の方々に出会って地域課題に接する機会を増やし、問題解決力を養っていく。 ○商業学科「課題研究」（観光ビジネス）の充実を図るため、先進校視察など積極的に取り組んでいく。 ○地域貢献への高い意識を持ち、イベントには多くの生徒、教員が関われるよう校内での連携を図る工夫をする。 ○新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと行い、課題研究発表会やファッションショー、卒業作品展など学習成果を発表する機会を確保する。 ○執行部の生徒自身が学校生活全般を振り返り、問題意識やそれに対する改善策を具体的な形で表す。さらに執行部が中心となり他の生徒の協力も仰ぎながら学校全体の取り組みとなるよう活動の拡大化、活発化を図る。 ○生徒会や各委員会活動、地域への活動等を通じ、責任感や協調性、積極性を育む環境を整える ○コロナ禍での活動制限もあるが国際理解を通じ交流事業の継続を目指す。保護者だけでなく生徒や地域社会に還元できるような活動を計画し実行する。	○国際交流ではPTA国際交流部が中心となりALTの先生を招き講演会を実施した。コロナ禍の状況でもあり外部団体等との交流までは行えなかった。 ○課題研究において地域課題の解決法を模索し、実践活動に取り組むことでふるさとへの愛着が生まれた。 ○家庭クラブが中心となり、中海アダプトプログラムや米フェスタ、米子空港での販売実習に取り組んだ。 ○学校評価アンケートの「社会貢献を推進しようとしている」の項目で肯定的な回答が82.5%であった。	B	○国際交流についてはALTの先生だけでなく国際交流員や関係団体等とも連携し、より充実した内容となるよう活動する。 ○公民館等の地域交流の拠点となる施設との交流や連携を深め、地域に根ざした活動が行えるよう努める。 ○次年度も地域と連携した活動を継続する。 ○eスポーツと高齢者のフレイル対策としての取組を融合させ、今後も地域とのつながりの充実を図る。
【業務改善の取組】 ○働き方改革の推進 ○時間外業務の削減	○ワークライフバランス確立の推進 ○長時間勤務者の解消	○時間外勤務時間は令和2年度に比べて15%の削減はできているが、個人によつての偏りが見られる。 ○各種委員会の精選、部活動顧問人数の削減を行った。	○各個人の時間外業務が月30時間（最大45時間）以内、年360時間以内となっている。 ○「部活動に係る活動方針」に沿った部活動が行われている。	○分掌業務が効率的に遂行されているか注視していく。 ○休日の部活動においては、できるだけ顧問間で分担する。	○時間外業務が年間360時間を越える職員の割合は、全職員の5.7%であり、R3年度より減少している。（1月末現在）	B	○様々な業務を複数で担当するようにし、科内及び分掌内で協働・共有化を図る。 ○業務内容を文書化し、次年度担当者が分かりやすいように書類を整理する。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し
【100%】 【80%程度】 【60%程度】 【40%程度】 【30%以下】